

雪上訓練①：谷川岳天神尾根

◆日程 2019年12月7日(土)～8日(日)

◆メンバー L：須田、河野、小林(義)、佐藤(俊)、小山田、今井、大山
小濱、伊藤(元)、今

12月7日(土) 天候：曇り時々晴れ (記：今)

谷川岳雪上訓練に参加した。雪山初体験ということで、ここ数か月は装備の収集にずいぶん時間を費やした。靴、アイゼン、ピッケル、アウター、インナー・・・いろいろ工夫しながら集めていくのはドラクエで一つ一つレベルアップしていくような気分で楽しかった。

靴、シュラフ、アイゼン・・・と言ったボスキャラを次々と倒し、とりあえず、これで一通り集めたぞ・・・と思った時には達成感とともに、何となく寂しくなってしまったものである。気を取り直して、「いざ雪山！」で谷川岳である。



個人的にはこの谷川岳にはつくづく縁がない・・・3回計画して3回登れておらず、今度こそは、しかも雪山で・・・と期待も膨らむ。自分が搭乗した伊藤(元)さんの車をはじめ、3台で一路谷川岳へ。関越自動車道からも雪山がチラホラと見え出し、麓から土合駅を過ぎるあたりでは、すっかり辺りは真っ白になっていた。折しも「天神平スキー場」がオープンとのことで、混雑が予想されたが人影もチラホラで拍子抜けである。

それにしても雪山は荷物が

重いし、かさばる・・・。

下記はロープウェイ乗車時に皆で荷物の重さを測った結果 須田 23Kg、大山 19Kg、伊藤、今 18Kg、河野、小山田、佐藤 16Kg、小林、小濱 15Kg、今井 14Kg・・・次は軽量化でレベルアップしていかなければ・・・と思った次第だった。

ロープウェイに乗ってスキー場に着いた頃には青空になり、フカフカサラサラのパウダースノーの世界で気分もグンと上がる。

思えば雪山なんて20年～30年ぶりかも知れない・・・

こんなコンディションなのにスキー客は数人いるだけで、隔世の感である。バブル期の申し子にして見れば、シーズン初期のこんな好コンディション時には「リフト待ちの大行列」と「白いウェアの原田知世」がたくさんいるはず！・・・などと思いながら、慣れないアイゼンを付けて雪山登山開始である。

歩くと暑い、停まると寒い・・・を繰り返し、アイゼンの爪で買ったばかりのスパッツに穴を開けながら穴熊沢の避難小屋に到着する。

先に2張りテントが張られていたが、小屋前に場所を確保して2張りのテントを張り、翌日、谷川岳頂上を目指すことにしてこの日は行動終了とする。

(記：今)

CT：海老名 SC7:00 - 谷川岳ロープウェイ 10:00 - 天神平スキー場 11:00-熊穴沢避難小屋-13:30



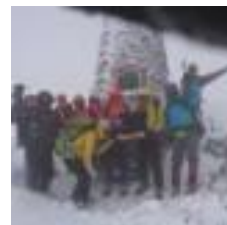
12月8日(日) 天候：雪後曇り (記：今)

寝るとき寒いかな・・・なんて心配をしていたが、シュラフは快適でテントの中はとても暖かかった。ただ、夜半からかなり風が強まり始め、雪とともにテントにザラザラと叩きつけてきた。雪はだいぶ積もったようだし、天気も悪いようだが、谷川岳登頂 決行とのことである。



前日、頂上は見えていたし何人か上っている人も見えたから登山道の踏み後も残っているものと思われたが、見事に雪に覆いつくされていた。強風と叩きつける雪のなかを手探り、足探り、時にはラッセルを交えて登っていく。こりゃ、厳しい・・・前は見えないし、顔が痛い・・・映画の「八甲田」や「聖職の碑」を思い出してしまった。

ホワイトアウト状態の中、かなりの時間をかけてようやく「肩の小屋」に辿り着いた。少し長めに休んで、外に出るとほんの数メートル歩いただけで、もう小屋が見えない。ここで須田さんから「ここでやめよう」と判断があり、ケルンの前で記念撮影して下山となる。自身4回目の谷川岳敗退が決定した訳だが、雪山の厳しさを垣間見たような気がした。



避難小屋まで戻り、テントを撤収しワカンを履いて下山を開始する。

雪がフカフカなのもあるが、ワカンで歩く感覚は未知の乗り物に乗ったような、はたまた富士山の大砂走をバフバフ走るような、不思議な感覚でとても楽しかった。スキー場手前で雪上訓練を一通り行い、行動終了。

帰りに温泉に寄って、温泉卓球に興じて帰途についた。こうして初の雪山体験が終わった。



初めての雪山登山は厳しさあり、楽しさありで、まだとても総括できるような状況ではない。ただ、改めて一步踏み出すことの楽しさと、優しくサポートいただいた仲間の皆様の存在のたのもしさを感じることができた良い山行になった。ありがとうございました。

(記：今)

CT：熊穴沢避難小屋 7:00 - 肩の小屋 10:00 - 熊穴沢避難小屋 13:00
- 天神平スキー場-15:00 - 下山